



No. 25 (2014年9月発行) 発行：北海道海洋生物科学研究会

1. 第13回シンポジウム（平成26年度）（函館）
2. 第12回シンポジウム開催報告（沖野 龍文）
3. 函館市国際水産・海洋総合研究センターの紹介（伏谷 伸宏）
4. 事務局だより

## 1. 第13回シンポジウム（平成26年度）（函館）

### 第13回北海道生物科学研究会シンポジウム開催要項

- 1) シンポジウムタイトル：  
函館の海から  
—水産・海洋生物研究の世界—
- 2) シンポジウム世話役：  
（代表）伏谷伸宏（函館国際水産・海洋都市推進機構長）  
（総務）栗原秀幸（北大院水）  
（総務）鹿糠幸雄（(株)エコニクス）
- 3) 日時： 平成26年10月31日（金）13:00～
- 4) 場所：函館市国際水産・海洋総合研究センター 大会議室  
（北海道函館市弁天町20番5号）  
TEL0138-21-4600 <http://center.marine-hakodate.jp/>

【アクセス】同センターアクセス情報を参照してください。  
<http://center.marine-hakodate.jp/access/>

（JR 函館駅から）

1. 市電&徒歩で約30分

函館どつく前行き「函館どつく前」電停下車（約15分）→徒歩（約15分）

※市電は10～15分間隔で運行、片道230円

※市電の詳細情報は函館市企業局交通部 HP を参照のこと

2. タクシーで約 15 分

3. バスで約 20 分※週 2 日のみ運行（月・金）

函館駅前・函館どつく⇒海洋総合研究センター

停留所名	1 便	2 便	3 便	4 便	5 便	6 便	7 便	8 便
函館駅前	8:20	-	-	-	-	-	-	-
函館どつく (市電終点)	8:35	8:50	9:05	9:20	12:45	13:00	13:15	13:30
センター	8:40	8:55	9:10	9:25	12:50	13:05	13:20	13:35

海洋総合研究センター⇒函館どつく・函館駅前

停留所名	1 便	2 便	3 便	4 便	5 便	6 便	7 便	8 便
センター	8:43	8:58	9:13	9:28	12:53	13:08	13:23	13:38
函館どつく	8:50	9:05	9:20	9:35	13:00	13:15	13:30	13:45
函館駅前	-	-	-	-	-	-	-	14:00

※バス時刻表などの詳細情報は（函館バス HP）をご参照ください。

※本時刻表は 2014 年 5 月現在のものです。

**（シンポジウム終了後には、バスはございません）**

5) スケジュール：

(1) 13:00~13:05 世話役挨拶

伏谷伸宏（函館市国際水産・海洋都市推進機構長）

(2) 13:05~13:45 「幼体移植式藻場造成法（モアシス）の開発について」

北山進一氏（共和コンクリート工業（株）海藻技術研究所 アルガテック Kyowa）

(3) 13:45~14:25 「北海道周辺の海洋環境と漁場形成 ―事例紹介―」

渡野邊雅道氏（道総研函館水産試験場）

休憩 14:25~14:45

(4) 14:45~15:25 「最近のバイオリギング研究 ―特に魚類への新たな試み―」

宮下和士氏（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）

(5) 15:25~16:05 「温暖化とマナモコの夏眠」

五嶋聖治氏（北海道大学大学院水産科学研究院）

(6) 16:05~16:10 代表幹事挨拶

尾島孝男（北海道大学大学院）

(7) 16:15~16:30 北海道海洋生物科学研究会 総会

(8) 16:30~17:00 センター内見学

(9) 17:00~ 交歓会（同センター エントランスホール）

ケータリングにより行います。

会費：会費：5000 円（予定、当日徴収します）

●交歓会への出席をご希望の方は、準備の都合上世話役の鹿糠幸雄（(株)エコニクス）へ 10月21日（火）までにご芳名、所属、連絡先をお知らせください。

連絡先：（メールアドレス）y-kanuka@econixe.co.jp

（電話）0138-85-8737

（FAX）0138-85-8738

●シンポジウム参加のみの場合はあらかじめ申し込みの必要はございません。

○シンポジウム全般に関するお問い合わせは世話役の栗原秀幸（北大院水）にお願いします。

連絡先：（メールアドレス）kuri@fish.hokudai.ac.jp

（電話）0138-40-5561

## 第13回北海道生物科学研究会シンポジウム

# 函館の海から — 水産・海洋生物研究の世界 —

日時：平成26年10月31日（金）13:00～ ※一般の方もご参加いただけます

場所：函館市国際水産・海洋総合研究センター 大会議室（北海道函館市弁天町20番5号）

### プログラム

(1)13:00～13:05 世話役挨拶

(2)13:05～13:45 幼体移植式藻場造成法(モアシス)の開発について

(共和コンクリート工業(株)海藻技術研究所 アルガテックKyowa) 北山進一氏

(3)13:45～14:25 北海道周辺の海洋環境と漁場形成 — 事例紹介 —

(道総研函館水産試験場) 渡野邊雅道氏

休憩 14:25～14:45

(4)14:45～15:25 最近のバイオロギング研究 —特に魚類への新たな試み—

(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター) 宮下和士氏

(5)15:25～16:05 温暖化とマナマコの夏眠

(北海道大学大学院水産科学研究院) 五嶋聖治氏

(6)16:05～16:10 代表幹事挨拶

○交歓会(同センター エントランスホール) 17:00～ 会費:5000円(予定、当日徴収します)

シンポジウム世話役:

(代表)伏谷伸宏(函館国際水産・海洋都市推進機構長)、

(総務)栗原秀幸(北海道大学大学院水産科学研究院) 全般のお問い合わせ kuri@fish.hokudai.ac.jp、0138-40-5561

(総務)鹿糠幸雄((株)エコニクス) 交歓会申込先(10月21日までに) y-kanuka@econixe.co.jp、0138-85-8737

## 2. 第12回シンポジウム開催報告（札幌）

### 「海から新しいビジネスをつくる」

昨年度のシンポジウムは、例年とは違い年が明けてからの開催となり、1月17日（金）に北海道大学大学院地球環境科学研究院で3年ぶりに開催された。今回は、企業の方および企業との接点が多い方に講演をお願いした。本会の唯一の法人会員であるエコニクスおよび関連会社の沿海調査エンジニアリングからお二人に講演していただいたばかりでなく、橋会長はじめエコニクスから多数の方に参加いただきシンポジウムを盛り上げていただいた。また、ブックレット「海から見える積丹の自然と暮らし」を提供いただき、参加者に配付した。ビジネスをつくるというシンポジウムのタイトルであったが、両社からはビジネスを超えて地域おこしの担い手となっているところを紹介いただいた。北海道の人口減少が報じられているが、地域にビジネスがなければ人が集まることは難しく、そのためには民間の活力に期待したいところである。後半は海洋生物の素材の新しい活用例を紹介いただいた。それぞれ大学の研究者とも協力しながら成果を挙げていらっしゃるが、ビジネスとしての成功にも期待したい。特に、本会創立メンバーの一人である高橋先生からは、大学から民間に移ってますます研究を進められていることとお話しいただき、若い者に刺激となった。講演終了後に行われた懇親会は参加者が多かったとは言えないが、後半には全員が車座となつてなごやかな歓談となった。北海道海洋生物科学研究会ならではの懇親会であった。

講演タイトルは以下の通りである。

（沖野）

#### CSRを活用した自然再生事業——藻場ランドプロジェクト

（株）エコニクス 佐藤直樹氏

#### 沿岸環境保全と地域ブランディング

株式会社沿海調査エンジニアリング 大塚英治氏

#### 海藻などのバイオマスを原料としたバイオポリマーの応用事例

北海道立工業技術センター 小林 孝紀氏

#### 鮭白子核酸の応用研究とビジネスについて

日生バイオ株式会社 鈴木 健氏

#### がんの末期現象カヘキシアの成因と阻止に関する研究～海藻素材も使用して

シンゲンメディカル（株）・札幌がん統合医療ラボ（株） 高橋延昭氏



### 3. 函館市国際水産・海洋総合研究センターの紹介

函館国際水産・海洋都市推進機構長 伏谷 伸宏

水産・海洋分野の学術研究機関や民間企業が、同じ屋根の下に入居し研究開発を行う貸研究施設「函館市国際水産・海洋総合研究センター」が平成26年6月にオープンしました。このセンターは、そもそも一握りの町起こしグループによる活動を、函館市が取り上げて「函館国際水産・海洋都市構想」を立ち上げ、さらには「一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構」を設立したのが発端となり、センターの建設に至りました。

研究室、各種実験室のほか、市民や観光客に公開されているエリアには大型実験水槽、展望ロビーなどがあり、大型実験水槽において9月からイカの生態についての研究が行われており、イカが産卵し水中に漂う卵（卵塊：らんかい）を見ることができるなど、入居者の研究内容について珍しい様子を観察することもできます。

また、スクール形式で約150名、椅子のみで250名の収容力をもつ貸大会議室や中会議室も備えており、エントランスホール等も併せて利用し、中小規模の学会等のコンベンション機能も持っております。

当研究センター前の函館港弁天岸壁は、入居者の北海道大学水産学部や函館水産試験場の調査船や練習船の母港として、また様々な練習・研究船により利用されています。

また、当研究センターの役割や研究について、市民や観光客の皆様幅広く知ってもらい、かつ海について学び体験する機会を提供するイベントを開催するなど、市民へ向けたPR活動も行っています。なお、先日行われた「マリンフェスタ2014」には、約2,800名もの市民の方に来場いただきました。

センターの概要は以下の通りです。

開館時間： 9：00～17：00

休館日： 土日祝日、12月29日～1月3日

主な施設：

- ◆研究室・共用実験室（学術研究機関や企業等が、水産・海洋分野の研究開発を行います。）
- ◆大型実験水槽（海水を使用した実験などが行われ、一般公開エリアから観察が可能です。但し。実験の実施は不定期。内容によっては見学不可の場合もあります。）
- ◆実習室（海水を使用した各種実習を行うことが可能です。）
- ◆展望ロビー（函館港を一望できる、眺めのいい新たな観光スポットです。）
- ◆お問い合わせ 函館市国際水産・海洋総合研究センター（弁天町20-5）

TEL：0138-21-4600 FAX：0138-21-4601



## 4. 事務局だより

### 1) 会員募集

個人の会員および賛助会員（団体）を募集しています。なお、入会希望の方には払い込み票をお送りしますので、ご連絡下さい。

年会費：一般会員 1,000円、学生会員 500円、賛助会員（団体）10,000円

会費振込先 郵便振替口座番号 02700-1-93161 加入者名 北海道海洋生物科学研究会

### 2) 会員の動向

下記の方がご入会になりました。現在会員数は30名、1社です。

マレーシアサバ大学 鎌田昂氏

退会者 佐原弘益氏、内田卓志氏、町口裕二氏、鈴木鐵也氏、藤原和彦氏、安住薫氏  
本山恵美子氏、坂本樹則氏

住所・所属先の変更がございましたら、事務局までお知らせ下さい。

### 3) 会計報告

平成22～24年度会計報告は以下の通りです。平成23～25年に開催された総会で承認されました。

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
収入			
会費	60,000円	32,000円	31,000円
繰り越し	57,740円	51,258円	50,038円
計	117,740円	83,258円	81,038円
支出			
事務用品	19,222円	0円	0円
送料	4,800円	2,320円	2,200円
振替手数料	2,160円	1,400円	1,160円
シンポ補助	40,300円	29,500円	44,600円
小計	66,482円	33,220円	47,960円
繰越	51,258円	50,038円	33,078円

### 4) 平成25・26年度幹事会

平成25年4月～平成27年3月は現在と同じメンバーで幹事会を構成し、栗原氏にホームページを担当していただくことが総会で承認されました。

尾島孝男氏（代表幹事）、山下和則氏、栗原秀幸氏（ホームページ担当）、阿部剛史氏（ニュースレター編集委員）、久保田高明氏（会計監査）、沖野龍文（事務局）

その後、幹事会の協議によりニュースレター編集委員を松浦裕志氏に依頼しました。

### 5) 記事募集

ニュースレターへの情報提供・投稿を随時募集しております。編集担当までお知らせ下さい。

旭川高専 松浦 matsura@asahikawa-nct.ac.jp

### 編集後記

今号からニュースレターの担当となりました。不慣れなこともあり、若干心配ですが、皆様に様々な情報をお届けできるように頑張りたいと思います。よろしく願いいたします。（松）